

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2022年度) 評価結果報告書

2023年1月27日

社会福祉法人森友会
えがおの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 -

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	☒ 福祉	☒ 経営
	②	H0702077	☒ 福祉	☒ 経営
	③	H0902065	☒ 福祉	☐ 経営
	④	H1001023	☒ 福祉	☐ 経営
	⑤		☐ 福祉	☐ 経営
	⑥		☐ 福祉	☐ 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	えがおの森保育園			
事業所連絡先	〒	185-0013		
	所在地	東京都国分寺市西恋ヶ窪4丁目17-18		
	TEL	042-312-4833		
事業所代表者氏名	幸 博史			
契約日	2022 年	8 月	1 日	
利用者調査票配布日(実施日)	2022 年	9 月	9 日	
利用者調査結果報告日	2022 年	10 月	22 日	
自己評価の調査票配布日	2022 年	8 月	22 日	
自己評価結果報告日	2022 年	10 月	22 日	
訪問調査日	2022 年	10 月	31 日	
評価合議日	2022 年	10 月	31 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・すべての子どもの最善の利益のために ・「心身の調和的発達」を促す保育 ・「基本的な生活習慣」の育成を進める保育 ・「集団への参加と自主協調の態度」を養う保育 ・「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎」を培う保育
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1)職員に求めている人材像や役割 チームで保育するので、「チームでのワーク」ができることが必要です。 そのために、他人のよいところを見つけ、お互いに信頼関係を築ける人を求めています。 (2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 大人にとっては何気ない1日であっても、こどもにとっては「子どもの頃の思い出」を今まさに作っている最中であることが想像できる人であって欲しい。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯81(在籍児童数99)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	99
利用者家族総数(世帯)	81
共通評価項目による調査対象者数	81
共通評価項目による調査の有効回答者数	65
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	80.2

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」35.4%・「満足」60.0%の計95.4%と高い値を得ており、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「食事」「急な残業等への配慮」など全17問中11問で80～90%台の高い支持を得ている。

自由意見では「働く保護者に寄り添ってくれ、異年齢児保育で自分より大きい子や小さい子に対しての接し方など学べる」ところが気に入っている」「園での生活や遊びの中で、年上・年下の子と関わることで心身ともに成長していると感じており、子どもがやりたい(チャレンジしたい)ことをできるだけさせてくれ、家具が木製ということも気に入っている」「園庭で外遊びをさせてくれることや保育士の皆さんの感じがよく、連絡帳のフィードバックも丁寧でわかりやすく、コロナ対策もしっかりしている」「活動や食事の時間が細かく決まっておらず、子どもがやりたい時にやりたいことを自分で選び、主張できる雰囲気自主性を育み、よいと思う」「先生方が園児一人ひとりをよく見てくれている」などの声が寄せられている。

さらなる向上を望む意見としては、日常の保育や職員の体制、子どもの様子等の報告・発信に関することなどが見られ

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	62	1	0	2
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が98.4%、「どちらともいえない」が1.6%となっている。 自由意見は14件で、「保育者との関わりで言葉や歌を覚えていっており、本人も毎朝登園を楽しみにしている」「子どもの気持ちに寄り添う保育を通して先生たちから愛情を感じ、安心感の中ですくすくと成長している」「好きなことを子どもができて、それをそっと支え、たくさん誉めてくれるおかげで、より楽しい気持ちが芽生え、急成長していると感じている」「楽しく通えている」などの声が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	60	3	1	1
「はい」が93.8%、「どちらともいえない」が4.7%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は15件で、「アイロンビーズ、塗り絵、季節の飾り作り、園庭遊び、オベレッタ等々、数えきれないほどの遊びを提供してくれている」「野菜を育てたり、カブトムシやクワガタに触れて観察したり、刺激がありよいと思う」「やりたいことに自由に取り組めるようになっていて、工作や外遊び、表現などその日の気分でやりたいことを楽しめているようだ」などのほか、日常の保育内容等について、さらなる工夫を望む声が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	58	4	1	2
「はい」が92.1%、「どちらともいえない」が6.3%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は12件で、「手作りで温かく栄養たっぷりのものが食べられるのはありがたい、メニューもさまざまでよい経験になっており、おいしいとのことだ」「嫌いなものが多いが、先生たちは決して叱らずいつも優しく温かく見守ってくれ、大変感謝している」「品数が多くバランスがよく、おやつも手作りで、親の自分が毎日食べたいと思っている」などのほか、メニューや離乳食提供の融通性、アレルギー対応などに関する声が寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	38	20	4	3
「はい」が61.3%、「どちらともいえない」が32.3%、「いいえ」が6.5%となっている。 自由意見は27件で、「野菜を育てたり、近所の畑でじゃがいも掘りを体験したり、自然とふれ合う活動が多く、カレー作りではスーパーでの買い出しから調理して食べるまでやらせてもらえ、素晴らしい」「季節に応じて花を植えてくれたり、行事に合わせて制作したり、四季を感じることができた」「コロナ禍で大変な中いろいろと工夫してくれている」などのほか、戸外活動等のさらなる充実を望む声や、コロナ禍の影響に言及する声などが見られた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	45	2	0	18
「はい」が95.7%、「どちらともいえない」が4.3%となっている。 自由意見は8件で、「大変柔軟に対応してくれ、急な延長保育をお願いした時でも、補食のおにぎりが残っていれば食べさせてくれる」「急な残業などで予定通り迎えに行かない際などでも、快く対応してくれている」「対応してくれている」「感謝してもしきれない」などのほか、お迎えの遅れ等への柔軟な対応について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	41	16	7	1
「はい」が64.1%、「どちらともいえない」が25.0%、「いいえ」が10.9%で、「はい」の値は前回(2019年・以下同、50.0%)と比較して改善されている。 自由意見は24件で、「玄関を開けるためのボタンをより嚴重な位置に変えてくれた」「暗証番号の定期的な変更など気をつけているようで、今のところ園で大きなケガをしたという話も聞かない」「自由な保育スタイルの中でも最大限の安全管理をしてくれている」などのほか、保育中の安全管理や感染症対策、外部侵入対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	58	6	1	0
「はい」が89.2%、「どちらともいえない」が9.2%、「いいえ」が1.5%となっている。 自由意見は10件で、「保護者参加行事は土曜日の開催となっていて、土日休みの仕事なのでとてもありがたい」「大きな行事は必ず土曜日に入れてくれ、平日に仕事をしている親が多いので配慮してくれていると思う」「必ず事前にアンケートがあるので、日程に納得感がある」などのほか、行事の日程等における各家庭の負担や就労等への配慮などについて、さらなる対応を望む声があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	51	11	2	1
「はい」が79.7%、「どちらともいえない」が17.2%、「いいえ」が3.1%となっている。 自由意見は13件で、「忙しくても嫌な顔ひとつせず、いつまでも相談に乗ってくれ、気持ちに寄り添って一緒に解決方法を考えてくれる」「子育ての悩みを聞いてもらうこともあり、子どものことをよく見てくれている」「悩みごとを連絡帳に記入すると、その日の迎え時に時間を作って話を聞いてアドバイスをくれたり、すぐ対応してくれるのがうれしい」などのほか、コミュニケーション機会の確保や職員の異動・退職に関する内容などが見られた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	56	7	2	0
「はい」が86.2%、「どちらともいえない」が10.8%、「いいえ」が3.1%となっており、「はい」の値は前回(67.4%)から改善されている。 自由意見は12件で、「とても整理整頓されてスッキリしており、除菌もこまめにしてくれて感謝している」「消毒も定期的実施されており、非常に清潔な環境だ」「とてもきれいで、子どもたちの作品がきれいに装飾されているのはとてもよいと思う」「いつもきれいだ」「特に違和感を感じたことはない」などのほか、各室内の清掃などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	58	6	0	1
「はい」が90.6%、「どちらともいえない」が9.4%となっている。 自由意見は12件で、「子どもたちに笑顔で接してくれているので安心する」「いつも優しく対応してくれ、とてもありがたく感じている」「とても丁寧な対応だ」「先生たちがエプロンやジャージではなく私服でいてくれるので、保育園に来ると家に帰ってきたみたいに温かい気持ちになる」などのほか、職員の接遇や服装などに関する声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	50	11	1	3
「はい」が80.6%、「どちらともいえない」が17.7%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は17件で、「体調が崩れそうだという段階で一度連絡をくれるので安心でき、仕事のスケジュールを立てやすい」「体調不良時の園からの連絡で、仕事中であることを理解してくれていて、迎えを急がせず移動時間なども考慮してくれてありがたかった」「ケガや体調不良では状況を詳しく教えてくれる」などのほか、ケガや体調変化等の把握・対応や職員間の情報共有、保護者への伝達・報告などについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	36	13	0	16
「はい」が73.5%、「どちらともいえない」が26.5%となっている。 自由意見は12件で、「当事者同士の気持ちに寄り添って対応してくれ、大変感謝している」「どちらの意見も必ず聞いてから対応してくれているようで、子どもたちにとっても信頼できると思う」「公平に関わってくれているのではないかと思います」「あったできごとを伝えてもらっている」などのほか、子ども間のトラブルの把握や発生時の保護者への情報提供などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	57	8	0	0
「はい」が87.7%、「どちらともいえない」が12.3%となっている。 自由意見は13件で、「こちらが驚くほど子どものことを観察していて、気持ちを理解し、とても大切にしてくれていると思う」「子どもの意見をしっかり聞き出して汲み取ってくれていると感じ、子どもの気持ちを大切に扱ってくれていると思う」「いつも子の意思を尊重してくれていると思う」「当人の困りごとに寄り添ってくれる」などのほか、子どもの気持ちを大切にされた対応、保育者の子どもへの目配りなどについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	51	5	0	9
「はい」が91.1%、「どちらともいえない」が8.9%となっている。 自由意見は3件で、「プライバシーはきちんと保たれていると思う」「そう思う」「そのような観点で考えたことがなかったが、知られたくないことは現時点ではあまりない」との声が寄せられている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	47	16	2	0
「はい」が72.3%、「どちらともいえない」が24.6%、「いいえ」が3.1%となっている。 自由意見は10件で、「日々の様子を写真付きの便りで毎日教えてくれ、先生たちの愛情がたっぷり伝わってくる内容で、個人面談では何年経っても心に残る素敵な誉め言葉をたくさんくれる」「丁寧に保護者会等で説明があり、日々のできごとや帰宅時に伝えてくれている」「連絡帳をしっかりと書いてくれるのでそう思う」などのほか、子どもの成長・発達や日頃の生活等に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	45	9	0	11
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が16.7%となっている。 自由意見は6件で、「不満や不安については、特に積極的に聞こうという姿勢が全員から感じられ、嫌な顔は一切せず、真剣にいつまでも聞いてくれ、聞くだけでなく対応策を考えて、素早く行動してくれてすごい」「今のところ不満はない」「不満や要望を伝える場面はあまりない(非該当)」「対応してくれた職員による」などのほか、保護者の不満・要望等への対応などについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	35	12	7	11
「はい」が64.8%、「どちらともいえない」が22.2%、「いいえ」が13.0%となっており、「はい」の値には前回(54.5%)からの改善傾向が見られる。 自由意見は3件で、「入園時に説明があった」「特にそのような場面がないためどちらとも言えない」「説明されたのかもしれないが記憶にない」との声があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	保育や子どもの育成において法人共通に目指すものが、職員や保護者に表明されている 法人の基本理念とする「すべての子どもの最善の利益のために」を踏まえ、心身の調和的発達と基本的な生活習慣の育成など、5つの保育の基本方針を定め、「営める保育」などを法人共通の保育の柱として、日々の実践を図っている。保護者には見学・入園時にこれらを説明し、毎月の園・フロア便りでの園やクラス・子どもの近況の紹介、園長のその時々々の所感の発信を通じ、認識の共有に努めている。職員には法人による入職時の研修や常勤者の年2回の自己評価、日々の会議での保育や子どもに関する話し合いなどを、これらの周知と確認の機会としている。 保護者に喜ばれ、信頼される園を目指し、運営の体制・環境の最適化に取り組んでいる 園長・主任及び副主任を経営層として、日常の園運営や保育の提供・保護者への支援等を行い、折々の園の方針が毎月の各階のフロア会議等で現場に発信されている。保護者に「この園に入れてよかった」と言ってもらえる園であることを目指し、その基盤となる保育を主任・副主任が統括し、園長は運営における主たる決裁や、対保護者・対行政における最終責任を担うなど、役割分担と権限移譲による円滑な運営を図っている。また安全確保と清潔・整理整頓を旨とし、モノと仕事の両面で精査と整理・見直しを行い、業務の効率化と現場の負担軽減を図っている。 園としての意思決定と、必要な情報を組織内及び保護者に周知させる仕組みを整えている 主任・副主任が現場の声や種々の課題を把握し、それを踏まえた経営層による随時の話し合いにより、折々の園の方針や運営全般の方向性を検討・決定している。それらの周知を、園舎1階の0・1歳児と2階の2歳以上児のそれぞれのクラスで毎月設けるフロア会議で行う流れを、意思決定の基本的な手順としている。会議の内容その他の重要な情報は、議事録や全員閲覧の「コミュニケーションノート」、連絡通信アプリの連絡機能等により、組織全体に周知させる仕組みとし、保護者には主に同アプリでの配信により、各種の連絡事項等を伝えている。	

カテゴリ2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	☐ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー2の講評		
園内外の子育て家庭の声や職員の意向、地域の状況などの把握に取り組んでいる 各クラスで保護者が集う保護者会、個別の面談や日常の会話・連絡帳、行事後の感想収集など、多様な方法で保護者の意向を把握し、保育・行事や園運営等の参考とするとともに、見学受け入れ時の未就園家庭との会話などから、身近な地域内の子育てや「保活」等の傾向などを把握している。職員の意向は前述の各会議や定期的な個別の面談などから把握し、保護者の声とともに課題抽出に活かしている。また国分寺市の保育所園長会や、公立保育所を拠点に、各地域内の保育・教育関係者などが集う「基幹型システム」に参画し、地域の情報の収集源としている。 事業環境の動向や園の経営状況の把握と、法人としての中・長期計画作成がなされている 市・都及び国の各種政策・制度の動向、市内における保育施設経営等に関する情報は、上記の市の園長会のほか、法人内の系列園園長会、自治体・法人の各種発信物などから把握している。園の予算の作成や収支・稼働率などの管理は園長が行い、前述の法人内の園長会で、法人や系列各園と状況を随時共有している。また法人において、事業環境の動向・見通しや法人共通の諸課題を踏まえ、保育の質の向上や管理職者の育成、広報活動の強化など、今後の法人経営における最重点課題・取組・目標水準などを示す「中長期・短期事業計画」が策定されている。 年度の園運営と日常の現場の実務について、各期間の計画が作成・実行されている 年度の事業計画に、保育や人材の確保・育成、地域との連携・保護者支援、施設設備の維持管理と健全経営など、法人共通の書式・分野に関する方針や取組の概要が示されている。また保育・行事・防災など、日常の園運営において行われる現場の実務については、業務ごとに年間計画と具体的な取組・目標等に関する計画が作成・実行され、計画の期間や取組の内容に応じ、必要な進捗確認がなされている。昨年度から注力する仕事・モノの整理・合理化と、それを通じた現場の負担感抑制をはじめ、今後継続的に取り組む重点課題に関する計画の立案も期待したい。		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
職員としての法人共通の規律・規範等について、啓発の機会をさまざまに設けている マナー・身だしなみ、守秘義務や「報・連・相」などの社会人としての基本心得、「誉める」「笑顔」「美しい仕草」などの法人の保育者としての規範や所作などについて、職員には入職時の法人の研修の際に啓発がなされている。また常勤者には入職後の毎年度の自己評価によってこれらの確認を促し、今年度はそれに用いる書式を一般職員用と園長・副園長用に分け、職位に応じて求められる規範・態度等の周知につなげている。毎月の各階のフロア会議では、子どもへの関わりや環境美化、現場での所作などについて、経営層が職員の自戒を促している。 園内・家庭での虐待等の防止や、保護者の苦情・要望等への対応の体制を整えている 子どもへの呼称や言葉遣い、身体的接触をはじめ、いわゆる不適切保育を防ぐ取組として、法人策定のチェックシートを用いた自己点検を全職員が隔月の周期で行っている。また家庭での虐待等の防止に向け、法人策定のマニュアルを備え置くほか、支援を要する子ども・家庭の在籍時の関係機関との連携や見守り・経過記録等の仕組みを整えている。苦情解決制度を整備し、入園時の説明等により保護者に周知を図るほか、面談や日々の会話・連絡帳等によって意向を把握し、意見を踏まえて保育室内の教材類を見直し、安全の向上を図るなど、対応にも努めている。 地域への情報発信や実習生の受け入れ、地域内のネットワークへの参画等がなされている ホームページや国分寺市を通じた情報提供、地域の自治会の回覧板を活用した園便りの発信など、透明性の確保に取り組み、法人策定の手順書等に基づく保育実習生の受け入れも行っている。市の私立・公私立の各保育所が集う園長会への出席や、市の「基幹型システム」を通じた地域内の保育・教育等の関係者との連携など、地域ネットワークにも加わるほか、見学受け入れ時には来園する未就園世帯の求めに応じ、育児相談等に応じている。地域への施設機能の提供については今後の課題と認識されており、中・長期的な視野で検討することが期待される。		

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
法人内の事例をもとに必要な改善を行うなど、安全の確保と向上に取り組んでいる 子どもの主体性や自由な発想を尊重する保育の特性から、生活や遊びの中での事故の発生の抑止を重視するほか、災害・侵入や新型コロナウイルスなど、重要と位置づける各種リスクへの対策に取り組んでいる。法人内の各園で発生した事故・ヒヤリハット等について、法人が各園に随時情報を発信しており、回覧や会議での注意喚起によって共有を図るとともに、重要な事例について、園内の状況の確認や必要な改善策の検討を行っている。子どもの飛び出し事案をもとに、玄関ドアの開錠ボタンを移設するなど、具体的な改善事例も確認できる。 事故防止や災害・侵入対策など、日常で想定される各種リスクへの対策を行っている 園内での子どものケガ等の事故については、原因・対策の検討と現場への周知による予防と再発防止を図るほか、ヒヤリハットも全員閲覧の「コミュニケーションノート」等による共有と注意喚起を行っている。また毎月の避難訓練実施により、災害時の職員・子どもの動きや保護者との連携を確認するほか、アレルギー事故やけいれんの発生時の対応訓練、侵入を想定した不審者対策訓練も実施している。事業継続計画(BCP)は、訪問調査時点では感染症に関するものを作成しており、災害関連の同種の計画の整備や、各計画の組織内の周知が望まれる。 情報の取り扱いと漏洩の防止について、環境・仕組みや関連の規程等が整備されている 各種情報の取り扱いや漏洩の防止、開示・訂正等の請求への対応などについて、法人共通の規程・マニュアルが整備されており、マニュアルは今年度改訂がなされている。また職員には入職時に、実習生等には受け入れの際に、関連の啓発を行っており、保護者には入園時に各種利用目的等を説明し、同意を確認している。PC・タブレット使用時のパスワード・IDによるログイン制限や重要書類の施錠管理など、情報漏洩の防止にも配慮しており、事務室内の書棚で管理する各種書類については、機密性等を精査し、保管場所の再検討を行うことも期待される。		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準项目实施状況 10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(○○)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	☐ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(●●)		
評価	標準項目	
☐ あり ☒ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	☐ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(○○○○)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	☐ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(○○○○)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	☐ 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-5の講評		
職員の募集・採用と人事面の各種対応、各種労務管理について、仕組みが整えられている 法人内の広報・採用委員会が職員の募集・採用の中核機能を担い、法人サイト・SNSや各種養成・採用機関、在籍職員による紹介など、多様なルートで人材の確保に取り組み、傘下各園が養成機関訪問などの協力を行っている。人事面の各種措置は、各人の意向のほか、経験・能力や望まれる役割発揮、園内の状況などを考慮し、異動は法人、配置は経営層が決定している。各職員の就業状況の管理や常勤者・一部非常勤者対象のストレスチェックなど、労務管理面の諸整備もなされており、園内業務全般の見直しと効率化など、現場の負担軽減にも注力している。 自己評価と面談による個別の育成や、各種研修を通じた専門性向上が図られている 一般職員と園長・副園長を対象に、法人共通の「振り返りシート」がそれぞれ整備され、一般職員は社会人・組織人としての基礎力と法人の保育者に求める各種規範について、園長・副園長は組織の統率者としての能力・態度等について、各人が自己評価を行うとともに、一般職員は次年度の目標や受講すべき研修の設定を行い、園長との面談によりこれらを共有する、個別の育成の仕組みを設けている。また子どもの発達や安全・保健等の各種研修、都キャリアアップ研修なども順次受講され、主に報告書等の供覧によって学習成果が組織内に伝えられている。 法人・園の各単位で、学びや話し合いを通じた課題解決と同僚性促進に取り組んでいる 法人内に多様な研鑽の場が設けられており、共通の保育の柱とする「営める保育」に関する、視察と話し合いによる実務的な研修のほか、法人アドバイザーによる表現活動等に関する研修、外部機関と連携したチーム力向上やリーダー層育成など、学びの充実が図られている。また市内の系列園との間で職員が往来し、保育の視察や共通課題の検討を行う取組もなされているほか、毎月の各階のフロア会議では、毎回の議題を各リーダーが設定し、事前に現場の直近の課題を抽出したうえで、話し合いを通じた課題解決や、職員同士の共通理解の形成が図られている。		

カテゴリ7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 園の保育・運営の両面で、質の高い実践とその継続の前提となる、現場の良好な執務環境の実現を重点課題として、昨年度は業務全般の見直しによる超過勤務の縮減に注力した。またそれとも関連し、職員の働き方に応じたより効果的な能力発揮のための工夫にも取り組んだ。 業務の長時間化の主たる要因の一つであった行事の準備について、職員が関連の会議に臨む前にあらかじめ過年度の資料を確認し、必要な改善点などを把握しておくよう促すことで、短時間で会議を終わらせられるようにした。またそれぞれの行事に際しての装飾・備品類の作製は、先に企画を検討し、必要なものを精査したうえで、一定の作業時間内で可能なもののみを用意するようにした。種々の書類作成や日常の安全点検等についてもあり方を見直し、無駄を省くことによる省力化を図った。 また短時間勤務職員の能力活用にも配慮し、経験や識見をより活かすために、一部職員にはフルタイム勤務者と同等の役職・権限を付与するなど、人事面でも工夫を行っている。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 行事の準備の仕方の見直しは、関連の会議の効率化と充実に加え、各職員がそれぞれの行事の目的や実施の動機に立ち返り、子どもたちの日々の生活・活動の節目や集大成という本来の趣旨を、改めて確認する機会となった。これを含め、一連の業務の効率化・省力化については、職員自己評価でも成果に言及する声がさまざまに上げられている。また取組の過程では、園長が折に触れて職員への啓発を行っており、園長の責務として「やらないこと」を決め、現場の疲労によるミスや事故の発生を防ぎ、園運営の旨とする安全確保と清潔の維持につなげることや、各人が日常の業務の優先順位を意識し、限られた時間内で確実に消化することなど、現場の認識の共有を図っている。 今年度も取組を継続し、「もりんぴっく(運動会)」では毎年度の開催のつど職員が作製していた会場内の万国旗を廃止するなど、引き続き行事の目的・意義に照らした準備の最適化に取り組んでいる。また新年度初日には、園長がチームワークの促進や、職員同士が相手の立場に立って物事を考え、信頼・協力関係を深めること、自発的な創意工夫と必要の際の園長への相談、組織としての秩序とルール徹底など、現場に求める規範を発信している。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は園内各所の物品の整理・管理の徹底にも取り組んだ。事務室や各階の倉庫などで、種々の教材・備品類等の整理が行き届かず、それに起因する業務への支障なども生じていたことから、その解決に取り組むこととした。
棚を購入・設置するとともに、各物品の整理と、不要なものや保存年限を過ぎたもの、使用頻度の低いものは廃棄し、余剰のあるものは系列園に提供するなどして、さまざまな業務場面で、職員が必要なものを滞りなく検索し、使用できるようにした。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取組は一定の成果に結びついたが、一方で棚があることにより、かえって物品の滞留や整理整頓の遅滞が生じる面も見られた。これを踏まえ、今年度は倉庫内の棚や収納用の備品類等を適宜廃棄し、必要なものの検索の効率性を高めるための空間を設けるなどしている。また事業計画では「5Sの実施」を重点課題の一つとして、事務室内の不要の物品や過去の書類の整理、出し入れの頻度の高いものを手前に置くなど、動線を意識したレイアウトの工夫などに取り組むこととしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	サブカテゴリ
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
法人の理念・方針、特徴的な保育について、ホームページでの情報発信を行っている 法人のホームページ(以下、「HP」)には、系列園共通の保育理念や法人で大切にしている「誉める保育」「夢中になって遊べる環境」「異年齢保育」などを端的に知らせるとともに、これに関連する保育の象徴的な動画や、保育理念とその具体的な保育の内容をより詳しく伝える広報物「コンセプトブック」を公開している。また法人のSNSを通じ、園の特色や注力している部分を写真を添えて紹介している。その他、各園のページが設けられ、園の概要やアクセスマップ、0・1歳児と2歳以上児のそれぞれの一日の流れ、年間行事の予定などを掲載している。 行政との情報共有を図り、地域の方々に向けた各種の情報を公開している 定期的に行政との連携や情報共有を図っており、それらのもとで園の情報を公開している。市の入園申込の書類には、保育理念や保育の方針、保育の内容・特色や一日の流れのほか、定員や受け入れ開始月齢、開所や延長保育の時間などの情報を掲載するなど、入園を検討されている方々に施設選択に資する情報提供に努めている。また市のHPでは市内各園の住所・開園時間・休業日、最寄駅とアクセスマップなどが掲載されるとともに、市内保育所の各年齢ごとの定員と空き状況などが公開されており、随時その情報が更新されている。 園見学を受け入れており、実際の様子を見てもらいながら詳細な説明を行っている 見学は電話予約を基本として随時受け付け、子どもの日頃の様子やその雰囲気が見られる午前の時間帯を勧めている。当日は主に園長・主任が対応しており、法人の6つの子育ての基本的な考え方をまとめた資料「コンセプトブック」を手渡し、「誉める保育」や0・1歳児と2歳以上児の2フロアでの異年齢保育など、園の大切にする保育の方針や思いなどについて説明している。また問い合わせの多い延長保育や夕食・補食の利用方法とその料金など、個別の質問にも丁寧に答え、利用希望者等の園への理解が深まるように配慮している。		

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
入園内定者に向け、利用開始にあたっての重要事項の説明と同意確認を行っている 入園内定者には、説明会や個別の面談などを行っている。「入園のしおり」及び重要事項説明書を渡し、保育の内容や特色、登降園の約束ごとや持ち物、土曜・延長保育の利用の方法、給食の考え方やアレルギー等の対応、日々の子どもの健康管理や感染症での対応、SI・DSの留意点や安全対策、苦情解決制度や個人情報保護などを説明している。また適宜、質疑応答を行ったり、面談の際に相談に応じたりしたうえで疑問点等がないようにし、その後に重要事項や個人情報の取り扱いに関する同意書を取得している。 子どもの家庭での生活状況や健康・発育の状態等を把握し、開始後の支援に活かしている 入園前に、「個人調査表」「健康状況調査表」「新入園児食事状況調査」などの保護者が記入した書類を受け取り、家庭での状況を把握している。個別面談では保護者が提出したこれらの資料の内容を確認したり、保護者から子どもの成育歴や家庭での姿、園への要望等を聴き取っている。また健康面や食事面などでの配慮事項があれば、必要に応じて看護師・栄養士との面談を行っている。なお、主に離乳食等の食事面に関しては面談時期から利用開始までの時間が空くため、入園前までに電話等でやり取りしながら、開始後の個々に応じた食事提供につなげている。 利用開始や終了など、環境の変化に対する順応や不安軽減に配慮している 子どもが新たな環境に慣れるため、「慣らし保育」は保護者の仕事復帰や子どもの状況などを見定め、短時間の保育から、食事・睡眠・おやつ・夕方の保育などの体験と時間の延長を行いながら、通常の保育実施へとつなげている。また2週間程度を目安としてスケジュールを定めているが、開始後の子どもの様子等によって、日程や時間の変更などを柔軟に対応している。利用終了後の子ども・保護者の不安軽減に向け、日々の会話や面談などを行うほか、卒園等の際にはいつでも来てほしい旨を伝え、その後の来園時の関わりが持てるようにしている。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を 個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	☐ 非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもの成長や健診結果などを継続的に記録し、心身の発達の評価を行っている

入園時の年齢ごとの各種書類にて、発達状況、遊びや生活リズムのほか、食事状況などについて把握し、入園後については、日々の連絡帳や食事の移行に関する表などを通じて、家庭での様子の把握に努めている。毎月行う身長・体重の計測によって身体面の成長を把握し、結果を保護者と共有するほか、年2回の健康診断の結果や、公的健診の結果も記録している。心身の発達については、発達の主な現れに関するリストを用いて発達状況の評価するほか、リストでは表せない成長や、今後の見通しに関する職員の所見の記述もなされている。

全体的な計画をもとに長期・短期の各指導計画を策定し、日常の保育実践につなげている

全体的な計画をもとに年間指導計画を作成し、月・週の計画に展開させている。月間指導計画は、0歳・1歳・2～5歳児の区分で作成し、前月の子どもの姿・月のねらい・月間予定のほか、養護と教育の内容や環境構成、予想される子どもの姿・保育者の援助を定めている。月間指導計画は、担当とフロアリーダーが話し合いながら作成しており、異年齢の活動と子どもたちが自発的に活動できる環境構成、活動内容の工夫について重点的に話し合うようにしている。計画は周期ごとに振り返りを行い、次の計画に反映させることとなっている。

一人ひとりの発達や特性に応じられるよう計画を策定し、保護者に保育内容を伝えている

上述の集団としての各計画に加え、心身の発達が著しい0～2歳児には、一人ひとりに応じた援助が行えるよう、個人別の指導計画を毎月作成している。特別な配慮を必要とする子どもの援助では、年2回の市の巡回相談を受け入れており、事前に調査シートを作成し、観察後にはカンファレンスを行い、援助や環境構成の工夫に関する助言を得て、援助の参考としている。日々の送迎時の保護者との会話・連絡帳のほか、保護者会や個人面談を通じて、保護者に保育内容を伝えるほか、フロア便りを発行し、写真を用いて活動の様子を伝えている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
個人情報・プライバシーの保護や、子どもの羞恥心・自尊心への配慮に取り組んでいる 入園時に保護者に対し、個人情報の利用目的等の説明を行い、同意を確認するとともに、子どもの情報を外部に提供する必要が生じた場合には、そのつど保護者の同意を得る決まりとしている。また子どものプライバシーや羞恥心への配慮として、着替えの際には他からの視線を遮ることのできる場所を選んで行い、子どもにもその旨を伝えている。また排せつに失敗した子どもなどの援助でも、羞恥心の芽生えや自尊心に配慮して、他児にはわからないよう、さりげなく行うようにしている。 すべての子どもの最善の利益を実現すべく、個々を尊重した保育実践に努めている 保育理念「すべての子どもの最善の利益のために」をもとに、子どもの主体性を尊重した環境整備と保育者の見守りのもとで、子どもの行動や存在そのものを一緒に喜び、子どもの姿を見つめて育てることで、自己肯定感を獲得できるような援助を心がけている。また各フロアで異年齢保育が行われており、その中でも一人ひとりの状況をとらえ、職員間での情報共有を行ったうえで、その子のペースに合わせた援助や配慮に努めている。入園前後の面談や日々の会話などから保護者の状況等を把握し、各家庭の意向や習慣に沿った配慮や支援にも努めている。 虐待等の早期発見や対応の仕組みと、保護者支援の研鑽機会などを整えている 虐待の早期発見や予防・対応に関するマニュアルと関係機関との連携体制を整え、登園や着替えの際の観察等から早期発見に努めている。また階層・経験に応じて受講が課せられるキャリアアップ研修において、保護者支援に関する内容を受講することとなっており、報告書の閲覧を通じて組織内での情報共有を図る仕組みとしている。法人共通の虐待チェックシートをもとに、職員一人ひとりが毎月の確認を行っており、日頃の子どもの関わりや援助など、自身の保育を振り返り、望ましい関わりや援助のあり方などの再想起を促している。			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評			
園運営に必要なマニュアルを整備し、業務の実践とその徹底に努めている 系列園共通のマニュアルを定めており、今年度は一部改定したものが各園に共有されている。同マニュアルには、職員の心得や虐待防止・予防、保育の各場面や園外保育のほか、健康管理やケガ・事故の対応、感染防止や衛生管理、個人情報保護や侵入・災害の対策など、多岐にわたる内容がまとめられており、事務所にて閲覧に供している。日常的な業務の実践においてはフロアごとの会議や「コミュニケーション」を通じて、意識や手順などの共有が行われ、その徹底が促されるとともに、内容によってチェック表を用い、実施の漏れがないよう努めている。 各種の仕組みやマニュアルの見直しに取り組み、改善や工夫を行っている 法人内の専門部会や各委員会において、それぞれの運営状況や行政等の通知などを踏まえ、各種の仕組みの見直しを行っており、これらの検討の結果、変更された内容等が各園に展開される仕組みとなっている。また保育実践においては「誉める保育研究会」を通じ、系列園と相互に見合い、他の職員からの意見や提案を聴いたり、他園の状況を見て自園の保育に活かすなど、相互研鑽の機会がもたれている。園内においては業務の効率化と職員の負担軽減を意識しつつ、各種の仕組みやこれまでの取組を再点検し、各種の改善事例に反映させている。 保育や行事の工夫と、安全・衛生面の対策などに取り組んでいる 上記に加え、行事においては実施後の保護者アンケートや職員の振り返りなどを、次回の計画や内容へと反映させている。またフロア会議では子どもに関する情報を共有しつつ、コーナー設定や玩具等の種類などの見直しを検討し、子どもたちの生活・遊びがより充実したものとなるよう工夫している。その他、会議にて安全・衛生面の注意喚起をしたり、コロナ対応や熱中症予防などを事務所にて掲示するほか、園児の個別状況や近隣医療機関の一覧表を作成したうえで、経験に応じてアレルギーや心肺蘇生などの訓練に取り組むなど、万が一の対応にも備えている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	
評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している
評価項目1の講評	
子どもたち一人ひとりの発達等の把握に努め、環境構成の工夫につなげている 日々の園での生活の様子のほか、送迎時の保護者との会話や連絡帳のやり取りなどから、子ども一人ひとりの全体像の把握に努め、心身の成長・発達の状況を定期的・継続的に記録し、フロア会議などを通じて職員間の共有を図っている。また把握した子ども・子どもたちの発達や興味・関心を踏まえたうえで、環境構成の工夫に取り組んでおり、提供する教具の種類や量を検討し、入れ替えや追加などを行ったり、子どもたちの関わり方や動線から、空間構成を変更したりすることによって、子どもたちの主体的な活動を保障できるようにしている。 異年齢児の関わりによる、年齢相互の育ち合いが促されている 0・1歳児、2歳以上児は、各階で日常的に生活と遊びをともにしており、年齢相互の育ち合いが促されている。2歳以上児の部屋では、2歳児の生活面・遊び面の世話を年上児が意欲的に行ったり、気にかけてくれる姿や、遊び方や道具の使い方を教える姿が見られている。また優しくしてもらい、面倒を見てもらうことで、安心を得ながら生活リズムをつかみ、関心を持って新しいことに取り組んで、遊びや学びを獲得する年下児の姿も見られている。0・1歳児においても、そばにいる友達の様子に刺激を受けるなどしながら、人との関わりが促されている。 特別な配慮を必要とする子どもやトラブルの対応では、個々に応じた援助を心がけている 特別な配慮を必要とする子どもの対応では、専門家による巡回相談を受け入れて、個々の発達や特性に応じて援助できるよう努めている。観察前にはアセスメントを実施して子どもの成長や状況を把握し、観察後に行うカンファレンスで得られた、援助や環境構成の工夫に関する助言を援助の参考とし、巡回指導の結果は職員間で共有している。子ども同士のトラブルでは、保育者が子どもたちの関わり方を見守りつつ、間に入る際には双方の話をよく聴き、気持ちに寄り添いながら、代弁や話題の整理等の援助を行うとともに、関わり方などを伝えている。	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登降園の際には、保護者と子どもの様子を伝え合っている

登園時には保育者による視診が行われている。子どもと保護者と挨拶を交わしながら、子どもの顔色や表情のほか、機嫌や熱の有無などを確認し、保護者から家庭での子どもの様子や降園時間を聴き取っている。視診時の情報は、情報伝達・共有用の記録簿に記入し、職員は記載された内容を、連絡帳の内容とともに確認することとなっている。降園時には、子どもの様子をできる限りエピソードを添えて伝えるよう心がけており、玄関や廊下などの空間には、子どもの活動や行事の様子のほか、作品などを掲示・展示するなどして、保育の様子を伝えている。

排せつの自立や衣服の着脱などの生活能力の獲得への援助は、個々に応じて行っている

子どもが生活するうえで必要となる、排せつの自立や衣服の着脱などの生活能力を獲得できるよう、個々に応じた援助に取り組んでおり、2歳児までは個人別の指導計画を作成している。排せつの自立への援助は、子どもの排尿間隔などの身体機能の発達や意欲を踏まえ、保育者がトイレに誘いかけ、保護者にも園での様子を伝え、パンツの用意などの用意を依頼している。衣服の着脱への援助は、一緒に行いながら手順やコツを伝え、子どもに自発的な意欲が見られた場合には、見守りつつさりげない援助を行い、子どもができたことを実感できるようにしている。

生活習慣の習得・定着に向けて援助し、休息は個々のペースで取れるよう配慮している

教具は収納箇所に写真を掲示し、保育者が片づけの手本を示すなど、子どもがまねをしながら覚えられるようにして、みんなで使うものを大事に扱い、元の場所に戻し、片づけることの大切さを伝えている。自分の荷物の管理のほか、水分補給や手洗い、衣服の調節も、子どもが自分で行いながら身につけられるように援助しており、保育者は声かけ・問いかけによって子どもたちの自立を促している。休息は子どものペースで取れるよう、子どもの状態を職員間で共有して援助し、身体を休められる場所を用意するほか、乳児では午前睡や夕寝にも対応している。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	☐ 非該当

評価項目3の講評

心身の発達を促すさまざまな遊びを、子どもたちが自由に選べる環境を整えている

子どもが自分の興味や関心に応じたものに取り組むことで、心身のさまざまな発達を促しており、教具の内容や種類は、フロア会議などで検討している。構成遊びを楽しむものは、形状や大きさの異なるものを数種類用意するほか、カードゲームやボードゲームなどのルールのある遊び、楽器や制作コーナー・絵本などの感性を養う遊び、ままごと・人形・虫や生き物のフィギュア等の見立てややり取り遊びなど、さまざまなものを用意し、身体表現活動ができるスペースも確保している。また遊び同士の性質を踏まえた、空間構成の工夫にも取り組んでいる。

子どもたちの言葉の感覚や感性を養う活動が、さまざまに行われている

オペレッタ(音楽劇)などの集団活動では、参加の意欲を持っていない子どもがいる場合には無理強いせず、子どもの内発的な気持ちの高まりを待つなど、個々の気持ちを尊重を大切にしている。乳児期の援助の際には、発語を促せるよう、保育者が状況やものの名称、感覚や感情を言葉にして伝えている。絵本の読み聞かせや手遊びも行い、言葉を使った表現活動としてオペレッタを採り入れたり、やり取りや見立てを楽しむ遊びを提示したりしている。造形活動は発達に応じ、道具の使い方や表現技法を体験できるよう取り組み、個々の自由な表現を楽しんでいる。

園庭遊びや散歩などを通じて、子どもたちの感性や体力を養い、交通ルールも伝えている

園庭にはさまざまな樹木が植えられており、子どもたちは樹木や草花の変化から季節の移ろいを感じ、虫の探索や観察を楽しんでいる。砂場では、木の実や枝葉を使った見立て遊びのほか、砂山作りや泥団子作りに興じている。築山も設けられており、斜面や凸凹がある環境のもとで、鬼ごっこなどのルールのある遊びを楽しみ、走り回ることによって体幹が鍛えられ、身体の柔軟性が養われている。園外への散歩では、子どもの気づきに応答し、個々の発見をみんなの興味につなげられるよう、少人数で出かけており、散歩は交通ルールを伝える機会にもなっている。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

保護者への発表を伴う行事は、日々の活動とのつながりや発達を踏まえて実施している

保護者への発表を伴う行事を実施する際には、日々の子どもの姿や活動とのつながり・連続性を大切にしている。今年度の幼児クラスの「もりんびっく(運動会)」では、2・3歳児のねらいを「保護者とともに、子どもの成長を感じられる場とする・緊張感を味わいながらも行事に参加する」とし、4・5歳児は「行事に対して期待感を持ち、できたことの喜びを保護者とともに共有する」をねらいとして取り組むなど、発達段階に応じたねらいを定め、競技を決めている。「フェスティバル(発表会)」においても、発達に応じた取組内容を立案している。

「もりんびっく(運動会)」では、みんなで協力して取り組む要素を採り入れている

もりんびっくで年長児が取り組んだリレーでは、うれしさや悔しさ、協力すること、応援することなどを体験している。ソーラン節への活動では、衣装を話し合ったり、制作したりするうちに盛り上がり、波を表現する子・大漁旗を振る子・踊る子など、役割の中からそれぞれが好きなものに取り組み、みんなで協力して一つの表現を作り上げており、自発的な練習を楽しむ姿も見られている。4歳児もパラバルーンに取り組んでおり、声をかけて息を合わせながら、協力して技を身につけることで、子どもたちには達成感ややり遂げた自信がもたらされている。

夏祭りや遠足など、さまざまな行事を実施し、日常の保育に変化と潤いを持たせている

季節感のある行事にも取り組んでおり、制作活動や歌、遊び、行事食の提供など、さまざまな要素を関連させている。「七夕の集い」では絵本などを通じて行事の意味を伝えとともに、七夕飾りを制作したり、保護者にも協力を呼びかけ、願い事を短冊にしたためて飾りつけたりして楽しんでいる。夏祭りでは、露店のごっこ遊びやゲームを友達や保護者とともに楽しむほか、制作したお神輿を担ぎ、盆踊りを披露している。子どもの誕生日にはみんなで祝いするほか、遠足に出かけるなど、さまざまな行事を実施し、日常の保育に変化と潤いを持たせている。

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当

評価項目5の講評

保育時間が長くなる子どもの心身の負担への配慮に努めている

保育時間が長くなる子どもの心身の負担を考慮し、保育室内には子どもがリラックスし、身体を横にすることができる空間を設けるほか、休息や睡眠は子どもたち一人ひとりの状況に応じて取れるよう配慮している。子どもの健康面への配慮として、視診時に把握した子どもの様子や、連絡帳に記載された内容などを職員間で共有し、必要に応じて検温を行うなど、健康観察を行って体調の急変に備えるほか、適時水分を摂れるよう、ジャグボトルを各室に設置している。情緒面に不安が見られる場合にはスキンシップを図るなどし、安心できるよう配慮している。

子どもたちが一日を楽しく過ごせるよう、遊びの提供や安全面への配慮に努めている

日中の保育時間の多くは自由保育となっており、子どもたちは自分の好きな遊びを選び、園庭で遊ぶことも自由にできるようにしている。教具は子どもたちの興味・関心の状況を踏まえて定期的に見直しており、新しい遊びに触れられるようにしている。また延長保育の時間帯を楽しむことができるように、日頃提供しない教具・教材を出すなどの工夫も行っている。安全面でも配慮に努め、すべての年齢の子どもが一緒になる時間帯では、子どもたちに衝突の危険を伝えて注意を促し、玩具等も誤飲の危険の少ないものや、落ち着いて遊べるものを用意している。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当

評価項目6の講評

離乳食は子どもの咀嚼や体調を踏まえて進め、食事を楽しめる雰囲気づくりに努めている

離乳食は保護者から既食の食材を聴き取り、段階の移行では食材のリストを保護者と共有し、家庭で複数回経験した後に、体調や咀嚼の状況を踏まえ、無理なく進められるようにしている。提供は、まずは1対1で介助し、安全に食べられるよう、咀嚼や一口で食べられる量を踏まえて援助し、食具を使おうとする姿が見られる頃からは1対2の関わりとしている。食事中には、保育者は子どもとおいしさを共有できるような言葉かけや雰囲気づくりに努め、周りの子どもを意識する様子が見られる頃には、みんなで食べる楽しみを感じられるようにしている。

子どもが自分で選択することを通じて、食への意欲や意識を育みたいと考えている

1歳児の後半からピュッフスタイルを採り入れている。保育者は子どもとやり取りしながら、気持ちや好き嫌いを確かめたうえで盛りつけており、苦手意識のあるものでも、減らすことで食べてみようとする意欲を促している。2歳以上児では、正午前後の一定の時間帯の間であれば、自分が空腹を感じた時など、好きな時間に好きな仲間と食べることができることとなっており、子どもが自分で選択することを通じて、食への意欲や意識を育みたいと考えている。年長児は11月末から週に一度、就学を見ずえて、みんなで一緒に食べる日を設けている。

収穫体験やクッキングを通じた食育活動や、アレルギー食の安全な提供に取り組んでいる

野菜の収穫やクッキングなどの食育活動を通じて、子どもの食材や食事への関心を高めている。市内の農家の畑にサツマイモ掘り・ジャガイモ掘りに出かけ、収穫したものを調理してもらい、味わっているほか、園庭の木から収穫したカボスを使ったゼリー作りでは、果実を潰して果汁を集め、芋餅作りではジャガイモを潰し、丸めて形成し、ホットプレートで焼いている。またカレー作りでは、ピーラーや包丁などの調理器具も体験している。食物アレルギーを持つ子どもへの対応では、専用トレーを用い、複数名で確認をするなど、誤配・誤食の対策を講じている。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評

子どもたちが健康や安全を意識し、自ら取り組めるような働きかけをしている

日頃の保育の中でケガをしないよう、室内・戸外での遊び方を伝えるほか、戸外活動後・食事前などに手を洗って清潔にすることの重要性等を伝え、子どもが日々取り組みながら習慣となるようにしている。看護師による歯磨き指導では模型を使ったり、絵本を読んだりして歯磨きの大切さを伝えるとともに、歯にまつわるクイズをして子どもたちがより興味を持てるよう工夫している。また防災訓練では、子どもたちが地震・火災などの際に、落ち着いて指示を聞いて逃げることや、防災頭巾の被り方、避難時の約束ごとなどを、体験を重ねながら学んでいる。

専門家や保護者との連携のもとで、子どもの発育や健康状態の把握と支援に努めている

嘱託医による定期健診(0歳児が毎月、1歳以上児は年2回)があり、子どもの発育状況を確認・記録している。また保育中のケガ等の際の病院受診や相談ができる体制を整えるほか、医療的な面で保護者から相談があれば、内容によっては嘱託医に確認したうえで、看護師から返答するなどの対応も行っている。また入園時及びその後の面談等で、子どもの健康面の特性や配慮事項などを保護者から聴き取り、必要に応じて園での対応を定め、それぞれのケースに合わせた対処を行うこととしている。

子どもの健康管理やケア、感染症の予防など、保健に関する情報を保護者に伝えている

入園時には子どもの健康管理や感染症・SIDSなどの保健関連の情報を説明している。定期的に保健便りを発行しており、季節・地域の状況を踏まえた感染症に関する情報や留意事項などを掲載するほか、子どもの健康観察や生活習慣の大切さ、歯・目・鼻などの保健にちなんだ話題などを織り交ぜた情報発信を行っている。園内で感染症が発生した際には、速やかに保護者に情報を共有し、予防や蔓延防止の注意喚起を行っている。その他、身長・体重の測定結果とカウプ指数など、子どもの身体的な育ちについては、連絡アプリを通じて保護者と共有している。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

保護者の就労や子育て等の事情を把握し、多様な配慮と支援に努めている

保護者の就労や子育て等の個々の事情は日々のやり取りや面談などを通じて把握し、可能な配慮に努めている。また月極やスポットでの延長保育を行い、補食等の提供や急な残業等での柔軟な受け入れなど、各家庭の就労状況に合わせた支援を行っている。保護者参加の主要な行事は土曜日に設定しており、年度当初の年間行事予定の配信と、毎月の便り等を通じた直近の予定のお知らせを行うなど、保護者が見通しを持ち、日程調整がしやすいようにも配慮している。また行事後には保護者にアンケートを実施し、寄せられた声を今後の運営の参考としている。

個人面談や保護者会など、子どもの育ちや園の様子を保護者と共有している

日々の会話に加え、一定の期間の中で個人面談を実施し、事前のアンケートで保護者の意向等を確認したうえで、質問・相談ごとなどへの回答をするなど、園と家庭と双方の理解が深まるようにしている。保護者会ではクラスの方針や保育で大切にしていることを説明するとともに、日頃の生活や活動など保育の一端を動画で見てもらうことで、保育や子どもの発達に関する理解を深める機会ともなっている。また公開保育は保護者の好きなタイミングで遊び・食事などの様子を見てもらえるよう、人数制限をしつつも、随時の受け入れを行っている。

行事や送迎時など、保護者同士や親子での自然な関わりが持てる機会を提供している

保護者会では事前に募った話題を踏まえ、グループごとで保護者同士や職員と保護者との交流を深めている。また手遊びの紹介や保護者の自己紹介の方法を工夫するなど、話しやすい雰囲気づくりにも配慮している。エントランスのフロアには絵本・食事や子どもの作品・写真の展示と、ゆったりできるスペースを設け、日々の送迎時において、親子の会話や保護者同士の自然な関わりがもたれている。その他、保護者向けの育児講座を実施しており、講師による子育てに関連した講演やイベントなどを通じ、養育力向上の一助となるようにしている。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
子どもたちがバスや歩きなどで出かける園外活動の機会を設けている 園周辺の環境を活用した園外活動を探り入れており、誕生日の際には子どもと一緒にいく大人を選び、近隣の花屋に出かけてお祝いの花を購入している。また3・4歳児はグループごとで、少し遠くの公園まで歩いて出かける機会があり、公共のルールを理解したり、広場で身体を動かし自然の中での発見を楽しんだりしている。5歳児のお楽しみ遠足では法人所有のバスで野川公園まで出かけ、自然探索やアスレチック遊びをしたり、鬼ごっこやサッカーなどをするほか、レジャーシートを敷き、皆でいつもと違った場所で弁当を食べるといった体験が得られている。 食育活動の一環とした体験が得られており、今後の新たな地域交流も検討している 食育活動の一環として、近隣の畑で実際に土に植えられている芋を収穫したり、カレー作りの前日に近隣スーパーで食材を購入する機会が持たれている。今年度は大分県の方が来園し、果実をつぶして果汁を集め、ゼリーを作って試食するほか、カボスをモチーフにしたキャラクターと一緒にダンスをしたり、クイズをしたりして楽しんでいる。子どもたちの体験や視野が広がるよう、今後の感染状況や地域・保護者の意向を見定めながら、近隣との交流や関わりなどの復旧や新たな取組の開始など、無理のない範囲で取り組みたいと考えている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル①	業務の効率化と現場の負担感抑制に向け、ソフト・ハード両面で改善に取り組んでいる	
内容①	保育・運営の両面で質の高い実践を支える、現場の良好な執務環境の実現に向け、昨年度から継続してソフト・ハード両面で精査と改善に取り組んでいる。業務の長時間化の大きな要因の一つである行事の準備について、関連の会議のあり方や装飾・備品類の作製を、行事本来の趣旨に照らして適宜見直し、今年度も「もりんぴっく」で会場内に飾る万国旗を廃止するなど、省力化に努めている。また事務室・倉庫内の物品の整理・廃棄も行い、検索性の向上等につなげるなど、業務の効率化と現場の負担感抑制に向けたさまざまな改善に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	子どもたちの園での活動やその時の姿などを、保護者と共有できるよう工夫している	
内容②	子どもたちの園での活動やその時の姿などを保護者と共有できるよう、乳児フロアが週ごと、幼児フロアが毎日の頻度で、子どもたちの様子を写真等でまとめたものを掲示したり、月1回程度、子どもたちの活動やその姿の写真を玄関のスライドショーで見てもらったりするほか、動画配信サービスを利用し、子どもたちで楽しむ行事や乳児・幼児フロアの子どもたちの様子を保護者と共有している。また月の便りの配信や口頭でのやり取りのほか、子どもたちの作品を園内各所に展示したり、各種行事に参加してもらうなど、さまざまな取組を行っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル③	コロナ禍での行事の再開・復旧と、さまざまな活動及び取組の導入を行っている	
内容③	保護者参加の行事は人数制限や入れ替えなどの対策のもとで実施するほか、「もりんぴっく」の開催前には、保護者に実施場所や開催方法についてアンケートを実施し、それを踏まえて当日の感染対策や開催のあり方の参考とするなど、職員や保護者の意見を踏まえ、コロナ禍での行事の再開や復旧に努めている。また法人の所在地である県と連携を図り、カボスにちなんだ食育活動を実施したり、保護者向けの育児講座では、法人アドバイザーが子どもの養育方などを伝えるほか、今年度は親子で楽しめるパン講座を設けるなど、新たな企画にも取り組んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	生活や遊びのさまざまな場面で子どもたちの自己決定を認め、誉めることで、一人ひとりの自信や自尊心の育みを促している
	内容	子どもたちが、自分が興味・関心のある遊びに取り組めるよう、保育室内にはさまざまな種類の遊びを用意しており、発達段階や子ども同士の関わり方などを踏まえて、内容・構成の工夫にも努めている。また室内・園庭どちらを選んで遊ぶことも自由とするほか、食事や決められた時間内であれば、食べる時間を自分で決められるようにしている。保育者は子どもたちの意欲、行動や選択を肯定的に受けとめ、一人ひとりが自己決定するその姿を「誉める」ことを大切にしており、自分で考え行動する力や、認められることによる自信や自尊心の育みを促している。
2	タイトル	みんなで協力したり、考えたりしながら作り上げる行事が、子どもたちに達成感をもたらし、仲間同士の協調性を育んでいる
	内容	「もりんびっく(運動会)」では4歳児がパラバルーンに取り組み、声をかけて息を合わせながら、協力して技を身につけ、披露している。また年長児が取り組んだソーラン節は、自分たちで衣装を話し合ったり、制作したりするほか、踊りや波の演出など、それぞれが好きなものに取り組みながら、みんなで協力して作り上げる取組となっている。「フェスティバル(発表会)」のオペレッタも、役をイメージして演じることを楽しみ、協力して作り上げているほか、夏祭りの神輿はみんなでデザインを話し合っ制作しており、本番ではかけ声とともに担いでいる。
3	タイトル	戸外活動を通じて季節の移ろいや自然の不思議に触れ、感性を育み、起伏のある園庭での活動は体幹を鍛え、身体の柔軟性を養っている
	内容	園庭のさまざまな樹木は、子どもたちに季節の移ろいを伝えているほか、木の実や枝葉は見立て遊びの格好の材料となっている。また昆虫などの小動物の探索や観察を楽しんだり、冬には霜柱などの自然現象に触れたりするなど、自然に親しみ、不思議を体験する場にもなっている。園庭には築山も設けられており、斜面や凸凹のある園庭で身体を動かすことによって体幹が鍛えられ、柔軟性が養われている。園外への散歩は少人数で出かけており、保育者は子どものつぶやきや気づきに共感し、共有する喜びを子どもが感じられる「誉める」関わりに努めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	現状の仕組みの検証と効率化を行いつつ、保護者との理解共有がさらに深まるための取組やその後の成果へとつながることに期待が寄せられる
	内容	コロナ禍において、行事の開催方法の工夫や内容の充実、子どもの様子を知らせる写真・動画の活用など、保護者との子どもの育ちや保育についての共有に努めている。ただ、保護者との理解共有という観点において、利用者調査の結果からはさらなる向上の余地が見受けられている。これまで積み上げた仕組みを検証し、良い部分を残しつつ、業務効率化も視野に入れながら、保護者へのより効果的な情報発信と理解共有の工夫について、引き続き検討と実行を行い、その成果へとつながることに期待が寄せられる。
2	タイトル	日常の現場の危険の予測・察知の感性をより高める工夫や、各種の事業停止リスクを見すえた計画の整備・周知が期待される
	内容	大人の管理や規制によらず、子どもたちの主体性や自発性を尊重する保育の特性から、日常の事故の防止を重視している。法人が発信する系列他園の事例や園内の事例をもとに、必要な対策の検討・実施にも取り組んでおり、園内で発生した軽微な事例の原因・対策の検討・記録の徹底や、ヒヤリハットの収集・共有の活性化、それらの事例の集計による定量的な分析・傾向把握など、現場のリスクセンスをより高める工夫も期待される。また災害発生を想定したBCPの整備や、感染症に関する同計画と併せた現場への周知についても、取組を期待したい。
3	タイトル	目下注力する、及ぶ今後取り組むべき、園の中・長期的な諸課題・目標等について、計画的な推進を図るための仕組みの確立も期待したい
	内容	園長が中心となり、昨年度から業務全般の見直しと行うべき事柄の精選を行い、現場の負担軽減につなげるとともに、物品の整理による環境美化と業務効率向上にも取り組んでいる。これらは今後も継続する意向であり、年度ごとの段階的な達成イメージと必要な取組の明確化なども、一考の余地はあると思われる。また園に期待される社会的役割と将来にわたる経営継続の両面の観点で、園の機能・資源を活用した地域への支援も、今後の課題とされている。これらに取り組むための中・長期的な計画の作成や、年度の事業計画とも連動させた推進を期待したい。